明治三十一年十一月十八日印刷
明治三十一年十一月二十日發行

婦人衛生雜誌

第百八號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌

第百八號

目次

講演

◉小兒養料幷に牛乳の簡便なる消毒的貯藏器　宮本仲君

◉姙婦の養生　*Dr. I. S*

衛生叢談

◉煖室法

◉熱病者の看護法

◉自轉車の害

◉死亡者割合

◉腸窒扶斯の看護法及豫防法

◉赤痢及豫防法

◉小兒の補育

◉大日本婦人衛生會記事

◉寄送雜誌

◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌

第百七號

目次

講演

◉水の話　衛生試驗所技手　丸山長四郎君

官令

◉文部省令第二十號學校傳染病豫防及消毒方法

衛生叢談

◉非醫士療法につきての注意◉醫士の診察を受くる時の心得◉挫傷◉創傷◉出血につきて◉骨折◉失神者◉人身の構造及官能◉身体の勞働による食量◉救急箱の裝置◉◉鷄卵の蛋白と蛋黄◉肉類の鑑定◉赤痢患者

◉大日本婦人衛生會記事

◉廣告數件

◉大日本婦人衛生會決算報告

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百八號
（明治三十一年十一月二十日發行）

講演

●小兒養料幷に牛乳の簡便なる消毒的貯藏器

宮本仲君演説

頃日田中さんが見られて、誰れか面白い談話を演せらるゝ人を會に紹介して呉れとの御依賴で有りましたから、一二の心當りを賴んで見ましたが生憎皆差支へて出られないと云ふことでありますから、私が其人々の代理に少しばかり御噺し致すことになりました、素より名代の事で碌な御話は出來ませんから、今日の演説の責任は悉く長井君に御依賴をして、私はほんの一言御噺しをして御免を蒙るつもりであッた處が、長井君も遽かに御差支が出來て御依賴處か、私が今日演説の責めを背負擔ッて仕舞はなければならぬ事になりましたが、前に述ぶる如く何の考案も用意せずに參りましたので甚だ困りました、且ッ私は是れまでも御話をする度每に申すのですが、貴女方は優に社會の中流以上に位されて、自ら衛生の道なども整ふたる生活をして居らるゝ方々である、加ふるに然るべき醫師とも御交際が有り、又御自身に書を披いて御覽になるからして、總て衛生などの事は充分御承知であるので、強ち此會に被入しッて私共の饒舌のを御聽きなさる必要は無いといッても實は宜い位ゐでございます。ソレに反して下々の人は良い醫師に交ッて、萬事其指

揮を受けると云ふこともむづかしく、又衛生上の參考とすべき良い話を聞く機會もなし、又心懸けて、自ら書をたどッて知ると云ふ程の智慧もなし、又時間もなく腦中衛生の考へなどは殆ど無いもの丶方が多い處から、つひ其事が疎かになり易い、啻に疎かになるのみならず下々の人に限ッて、自分の身躰といふものは、高貴の御人と違ッて價直の低きが爲めか、極めて不養生の事ばかり致します、私は其不養生の事ばかりする樣な衛生思想に乏しき人々に此衛生會の演說を其度每に聽かせたいと思ふので御座います、故に貴女方十人に御話をするよりは、下婢或は褓母等に一人でも多く聞かせる方が利益で有ると信じます。私共の御話する事は貴女方は既に御承知の事であッて、御承知の事を幾度喋々した所が、恰も釋迦に說法でなんにもならない、故に皆樣が下婢褓母等を御伴ひなすッて下されば大へんに利益が有るといふことを每度御願ひを致しますが、每も／＼被入ッて居らる丶は御知合ひの方のみで、私共も知りつ丶甚だ詰らない御話をするやうになります。で私は每も腦中に、下等社會に衛生を普及させたいと云ふことを考へて居る爲めに今日の御話も、貴婦人方に對すると云ふよりは、皆樣方の御宅に御出入をする人々に利益する樣な事を考へて居ります。ソレは何う云ふ事かと云ふに、極く簡單な、極く價の廉い、牛乳の貯蓄法の御話で有ります。牛乳の貯蓄法といッても、牛乳屋が牛乳を貯蓄する方法を說くのではない、私が專門に心懸けて居る小兒の養ひに就て、牛乳を蓄ふるの目的に就て御話するので有ります。さて是れまでも小兒を養

ふ牛乳を貯蓄する方法としていろ〳〵の事を遣ッて見る、或は西洋人の眞似をして種々の壜を飾り立て丶消毒する方法も有りますが、是れは第一に不都合の點が有る、如何なる点かと云ふに、西洋と日本とでは生活の度合が違ひ物價の差等があります、其上に搗て丶加へて西洋では、其地で製造する器械故從ッて價も廉いが日本人が之れを用ゐむとするには、費用を掛けて外國より輸入したものを復本邦の商人が利潤けて賣るのですから、此器械は非常に高いものに當る、その高價なる器械を買はなければならむので御座います。即ち西洋の方では金の位が低いから、一圓の金も日本人の十錢位ゐに思ふて居る、然るに金位の高い日本では例之ば僅か一錢を出すのでも西洋人の十錢出すよりも苦いのである、故に今西洋人が十錢で生活する時には日本人は一錢で生活する方法を考へなければならないのです、又爾うしなければ生活されないのです、ソレ故に此價の高い器械でなければ牛乳が貯蓄されないと云ふことであつては下等社會の者は大へんに困る、どうか安價に單簡に、弘く普及する樣な貯藏方法を得たいと、いろ〳〵考へて見ました。サテ皆樣も御承知の、これまで仕來りたる牛乳の貯藏法は斯う云ふ樣に、(圖を書きて丁寧に説明せられたれども圖なくては明了に記し難ければ畧しぬ)………又近頃は(圖を畫きて示さる、仝上)斯う云ふ樣な壜が有りまして、自然に氣壓の爲めに抑へられて消毒さる丶樣なものが出來まして專ら西洋でも流行して居ります、日本でも此消毒器械が專賣のやうになつて居ります、此方は丁度壜が四五本ばかり揃つて居る一組

の他が三圓若干で有ります。ソレですから下等社會の人に、小兒に與ふる牛乳を能く消毒せよといつても一組二圓半己上三四圓も取るゝので容易に之を購はない、さうして只土鍋で煮沸しまして後一本にして壜に注いでキルクの栓を蓋て蓄へて置く、不注意の人は煮た儘で土瓶の中に入れて置きます。殊に此キルクの栓と云ふものは一寸見ると清潔なやうでも一面に小孔が有りまして、その中に目に見えない程の小さい黴菌が付き殘ッてソレが腐敗し　何萬と云ふ黴菌となる、ソレを毫しも知らずに壜の口を拔差して居るうちには、自然と壜中の牛乳の中に黴菌が這入ッて、爲めに忽ち腐敗して仕舞ひます、壜の栓と云ふものは余程注意をしないと可けませぬ。人工滋養にして母親の注意が屆かず乳の貯へ方が惡るいと種々の病を起し就中往々小兒虎列刺といふて（眞正の傳染をする虎列刺では有りませぬか）救ふべからざる重い病氣なぞを起します。併ながら日本には此病氣が割合に少ない樣に今日まで見て居ります、是れは國の爲にも極めて幸の事で有ります、西洋に於ては夏季五月比より九月比までの間に、殊に下等社會の小兒に此病氣を隨分見受けます。ソレは何う云ふ原因で有るかと云ふに、彼地では下等社會の人民は概ね空氣流通の惡い室内例之は階下穴倉の如きに住ッて居る、而して日本なぞと比較すると余程生活が忙しいでの、人工滋養即ち牛乳で小兒を養育して自分は一生懸命働て居るものが非常に多い此は牛乳が廉くて人手間が高い故てす。日本の御婦人の樣に暇………と申しては誠に失禮なから貴女方上流社會は特別として中流己下一般

に日本では下等社會の女房でも多く火鉢の前に据り込んで、長煙管で煙草でも吸ひつゝ雜談に日を暮して居る輩かある處が生存競爭の烈しい西洋ではぐづ／＼して居つては食つて行かれぬ樣で、被傭かせぎの者などは日々生活に追はれてなか／＼手づから小兒を養育することさへ出來兼ぬる程の塲合かあるから、遂に人工滋養に托するので有ります、ソレでも其取扱ひが充分に屆かないので、とかく種々の病氣を起して救ふべからざるに立到ることが多いので有ります、此に比すれは日本では同じ下等社會でも實に結搆で西洋各國ほど生活に追はれず、從つて手間も廉く時間に餘裕が有り、從て母乳か安くして反つて牛乳の價が高い故に人工滋養といふものが割合に一般に行れない爲めに其方法の能く開けぬ比較には格別害を見ることが少ないので御座います

私は今日一の牛乳消毒器を御目に懸けやうと思つて持つて參りましたが、先づ其前に一ッ御話をして置く事は小兒生息期の營養は、上は王侯富貴、下は勞働社會、もう少し下つて穢多非人に至るまて皆同く乳と云ふもので有ります併し。大人は勿論小兒でも乳離れ以上のものは、富裕者と下等社會とでは其食物即ち身躰に取る營養も違つて來ます、下等社會のものは南京米唐茄子芋なとを食つて漸く飢を凌いて居るやうな譯で、上等社會の御方とは大變食物が違ひます然れば乳兒の間には上下共幸にして母乳の質が良く、又澤山に出れば最早養育に差支ない筈で有りますが、母乳と云つても屹度良いと云ふ譯に往かない上流の人は体質及生活狀態に依りて乳に良否があり又た下等社

會にて体質は良くても身躰を勞し過ぎ、若くは營養不足等の母に就ては乳の惡るいものが澤山有る、其場合に下等社會の人は乳母を雇うと云ふことは容易く出來ない、ソコで已むを得ないから人工滋養をしなければならない事になる、即ち生牛乳又は煉乳を與へなければならない。前に言ふ通り小兒の食物は上下共に同じでは有りますが、其間に自ら等差が有ります、ソレは何であるかと云ふに、上流の人は例へば乳母を雇うにしても体質も善く乳の質は勿論又た教育もあり清潔好きの良き乳母を、多くの中より撰んで御雇ひなさる事が出來る、或は牛乳で育つるにしても特別上等の牛乳を用ひ、若くは良牛を一匹畜ッて自由に搾ると云ふ事も出來ませう、下等社會には爾う云ふ充分な事は出來ませぬ、併しながら養料と云ふ名稱の許には、上等社會も下等社會も替りは無く乳汁で有りますから、下等社會の人が最も便利に、最も輙く、而して過失の無い樣に教訓して遣るのが最も必要と思ひます

私は以前小兒の養ひといふことに就て御話をした時分にも、牛乳の事を委しく申した筈であッたが、其筆記を私かつひ失ッて了ッて雜誌にも載りませんで甚だ濟まむことでした、しかし皆樣も一遍御聽きになッたことを、又申上げては一ッ話が重復になりますし、亦私も今日は緩々御話して居る時が有りませぬから、孰れ後日最一度詳く申陳ることとして今は一躰だけ御話して置かうと思ひます

小兒の營養の一番結構なのは母の乳、次が乳母の乳、此二人の乳に如くものは有りませぬ、是れを

天然養料と謂ひます。人工養料の方は種々有りまして之を一々御話しは出來ないが其中の普通なるものは、生牛乳煉乳の二ツで有ります、（煉乳と云ふものは矢張り原は牛乳から製造したのであります）。山羊の乳、驢馬の乳と云ふものは人間の乳に能く似寄ッて居ッて、而して養ひの極く好いとので有りますが、少し乳臭ひ、所謂動物臭ひ爲めに小兒も厭ひます、殊に又價が高いと、物が少ないとで、普く行はれない、ソレですから先づ普通人に滋養といへば、牛乳と煉乳との二ツで有ります、此外にも未だ人工滋養の製法は種々有ります、「ビーテルト」と云ふ人は乳の上澄を種々に調合し、或は「リエビヒ」の人工乳、乳と麥芽粉と小麥粉とを煉り合せて糊の樣な飴の樣な乳を造り、又「レグミノーゼ」と云ふ植物性の蛋白質、或は小兒粉………小兒粉の中にもいろ／＼有りますが、「シャルロウ」氏の小兒粉などは其最たるもので、世間に多く用ひられて居ります、又牛乳で養うにしましても、その牛乳を余程精撰しませぬと、行かぬ然して牛乳を薄めるにもいろ／＼の方が有る、即ち小麥、麥、米の汁、ソップ等をも適宜に用います、一躰に人工滋養の方は大へんに面倒で一朝一夕に言ひ盡せるものでは有りませぬ、迚も一度や二度の會で御話をした處が、皆樣が記臆をなさることは出來ない、假令又覺へて居られても直ちに實行することは出來ない。斯う云ふことゝ云ふものはどうしても其時々々に當ッて、其兒に就て醫師に御相談なすッて御極めなさるより外有りませぬ、故に今日はソレ等の細かい事は略しまする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ソコで天然滋養と人工滋養との事を少し御話しなければならない、前回にも申した事が有りますが、總て物と云ふものは、便利なものでも遣ひ樣が惡るいと大へんに不便になり、又或は大へんに害を爲し、遣ひ樣が善ければ一層便利もし、利益も著しく見えるもので有ります、牛乳即ち人工滋養などは最も便利なる方法ながら、之を濫用すれば大へん世の中に害を殘します。さて其濫用とは如何ある場合を指すかと云ふに、母の乳の良否、或はその分量などに毫しも關係せず・只「牛乳を飲ませることに極めれば、自分の手が省けて大へん何かにつけて便利で有らう」と云ふ所謂自分が樂をしたいと云ふ理由のみを以て乳を飲ませずに牛乳にするといふことであつては小兒に對して大へんに無慈悲な仕打といはなければなりませぬ。母の健康が勝れぬとか、乳の分量が足らぬとか、乳の質が極く惡るくて小兒を養うことが出來ぬとか云ふ已むを得ざる場合に、始めて人工滋養を取るので有りまず、其母乳を廢する場合に臨んでも成るべくは善良の乳母を雇う計畫を、兎に角立つて見なければならない、さうして乳母を置いても、折角乳に慣れたとか思ふと、甚だ心懸けの惡るい女であつたとか、又は大へんに無精であるとか、若くは乳の性質が良くなかつたとか、其次のは乳は良かつたが脚氣を起したとか云ふ樣に、なにか故障を生じて、乳母の良いのを得ると云ふことはなか／＼六ケ敷いものである、ソンナ不便を見るよりは寧ろ牛の乳にした方が宜いと云ふ樣な場合、或は母乳の質も大層に宜いが、足らないから之を牛乳にして補ひを外で足して往きたいと云ふ場合

には無論牛乳を取るが宜い、只手數を省くと云ふ樣な、ソンナ輕々しい心で、妄りに母の乳を廢すと云ふことの無い樣にしなければなりませぬ。小兒養料は第一母乳、第二乳母の乳、第三人工滋養と差等を付けなければならない、さて其第三に屬する人工滋養の中で、生牛乳が最上です。ソレから後の事は今日は畧して申上げませぬ。さりながら一言申上ぐべきことは煉乳も極く良い處の物を撰まねばならぬ不良品や贋造物は尤も恐しき害があり升

今茲に天然人工の養料に係る小兒の發育を述べて両方の優劣あることを御參考に供へんと存します即ち

	百人に付		
(甲) 天然養料(母若くは乳母の乳にて育てたるもの)	体育健康なるもの 六二、六	中等のもの 二三、三	薄弱なるもの 一四、〇
(乙) 天然人工両養料(所謂半乳にして牛乳煉乳などにて不足を補ひたるもの)	同 二六、八	同 二六、三	同 四五、九
(丙) 人工養料(注意方法宜きを得れば格別なれど茲に擧げたるは普通不注意の母が普通の牛乳を以て育てたるものと知るべし)	同 一〇、	同 二六、〇	同 六四、〇

此の統計に因つて視れば小兒の生長健否の數は反對で天然滋養と人工滋養との差は其發育上の損益甚だ大なること明かで有ります。然れば容易に母乳を廢して人工養法を採ることは出來ないです、なほ他に死亡數の差なども詳しく調べたものが有りますが、ソレは又他日御話する機會も有らうと思ひますから今日は是れだけに致して置きます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ず乳母を御雇ひなさる時には是非醫師の檢査を要する事、又お雇ひなさる方の心得等は前回に委しく御話しました、やはり人工滋養も母なり乳母なりが小兒に乳を與ふる通りに嚴重に時間を定めて、最も清潔を旨としなければなりませぬ。又た第一に品質の良い牛乳を撰ぶ事です、若し之を疎かにしますと、却つて牛乳の爲めに害を生ずることになります。私共から見ますと、今ま世の中に、眞個に精良なる、牛乳は割合に少ない……今更申すも愚痴をこぼす樣であるか、先年婦人衛生會で、何か事業を企てやうと云ふ談のあつた時に、私は婦人衛生會の方ヽに御願ひをしたのは、世間一般に牛乳商はその價の廉なる競爭のみを熾にして、ソレが爲めに牛乳が漸々麁惡になるは實に慨すべき事故、茲に一ッ婦人衛生會は極正直な堅固なる牛乳屋を選んで其れに監督を置て良乳を絞らせ而して會員は各自に、義務として一合でも二合でも高い牛乳を取つて戴きたい、さうすると皆樣にも大層御利益になり、且つ一軒でも牛乳商がさう云ふ良い乳を絞ると云ふことになると、世間の小兒を牛乳で育てる人にどの位幸福になるか知れない、あの牛乳屋の乳なれば價は少し高いが品は確かであると云ふ樣になつて、おひ〱に人が良き乳を求むる樣になろう、御銘々の爲め、又弘く世のために、どうか牛乳の善き監督者を得て、良き乳を搾ることが出來れば、從つて牛乳屋も乳の價の競爭でなく、乳の質の良否に就て競爭をするやうになれば、世の中を裨益することは大なるもので有らう、どうか此事を御協議致したいと申した事も有りました遂に行れなかッた……今

貴婦人方は、黄金の簪とか、黄金の指鐶とか云ふものを御求めになるときには、其價には頓着なく、ヤレ「是れは黄金の性が惡るいとか」、「銅が澤山這入ッて居る」とか云ふて吟味なさるにも拘らず、牛乳の質の良い惡るいには御搆ひなさらむ、比較的賤い牛乳を以て來るものが有ると、「あの家は賤くて宜い」と直ぐ價の方に重きを置くやうな有樣であるが、どうか牛乳も黄金の簪、指鐶同樣に吟味をして戴きたいと思ひます。

煉乳も聞いて見るといろ〳〵さま〳〵のものが有る、是れは一々試驗をして見たら良いのも有りませうが、私は一番信用の出來る資本餘りある大きな會社で、毎も平等に製造するものを御勸めする、何故小さい所の製造品は信用せられないかと云ふに、其製造高が少なく、又資本に乏しきため、或時は大へんに好く、或るときは非常に惡るい、斯う云ふ信用のならない製造品では到底小兒に年中結搆な乳を與ふる譯には往きませぬ、ソレ故に先づ價は高くても、亞米利加の紐育の會社で製する鷲印の煉乳などは一番宜しからうと思ひます、併し是れも贋物が有りますから能く注意しなければなりませぬ、日本製でも最も能く直似した鷲印の乳がある善か惡いかは經驗が少いから知りませぬ。實際小兒を多く取扱ッて見ますと、乳の惡しき爲め病氣を惹起す小兒は隨分澤山有ります、ソレ等は乳を更めると三四日の中に漸々快復に赴きます、例之は脚氣症のある人神經質の人貧血虚弱等の人などより出る乳は宜くない就中脚氣が最も惡いか其他でも不良の乳では脚氣患者の乳を飲みたる小兒中殆と同し樣な容躰を惹起す、

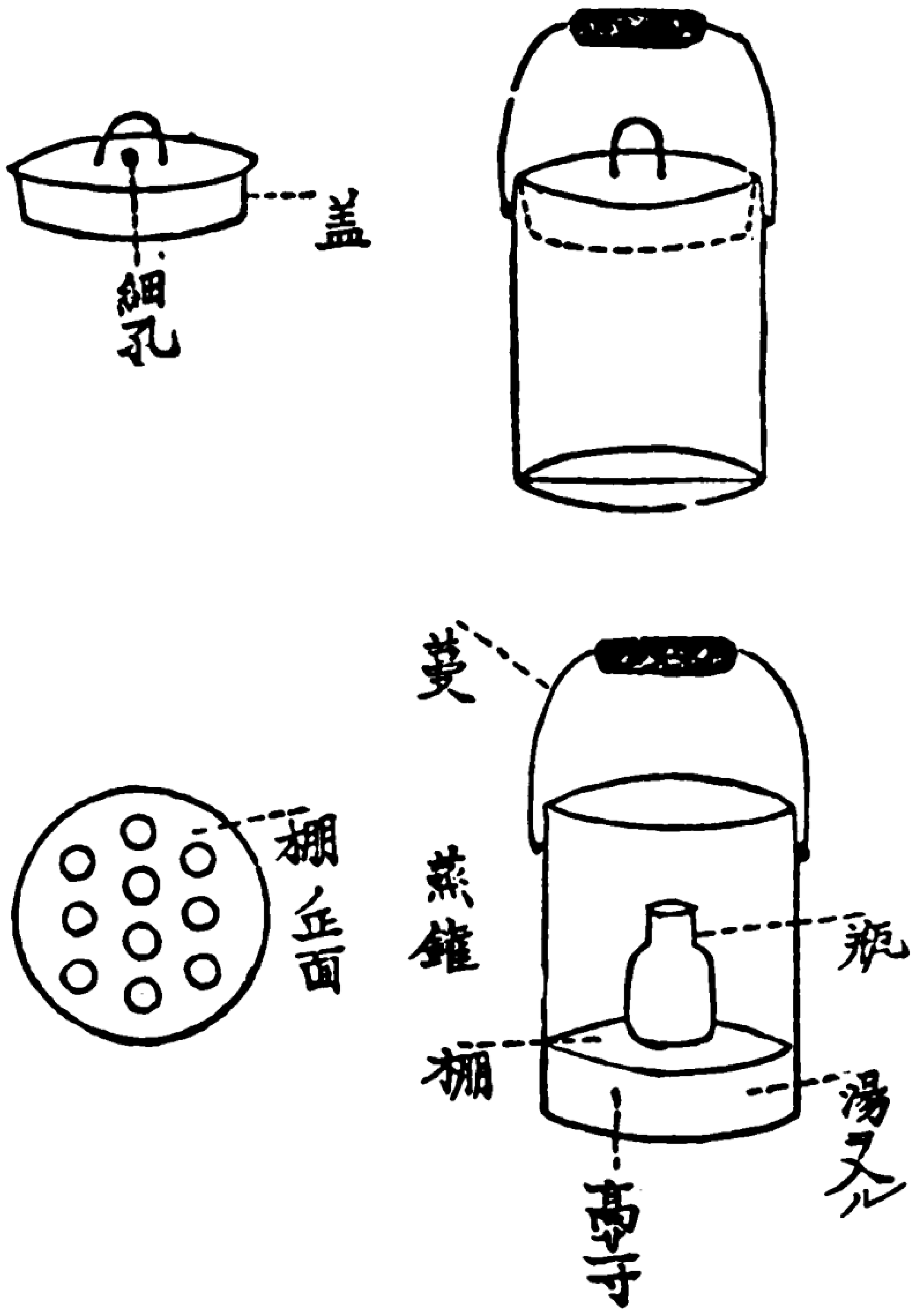
私は之を不良乳性の消化不良又は不良乳性の營養障害などと名を附けて置く、乳の惡るい爲めに、小兒が危篤に陷る事もある、さう云ふ場合には斷然その乳を廢さなければならむ、引証のため一例を御話致します。すぐる六月頃で有りました本郷の方のものですが、九ケ月ばかりになる小兒が下痢を起し靑き便を通し、吐を催し、顏色蒼く顖門の所がだん／＼高くなり、目も見えない、時々物に愕えると云ふ容躰で、先づ腦膜炎の兆候、所謂慢驚風と云ふ病氣だらうと云ふ考へで心配をして居りました、五六日の後私の宅に連れて來られた、ソレから私が診察をして見ると「腦膜炎」の樣な容躰であるから腦膜炎といッても決して惡るくはないが、併しながら少し疑はしい處があるあなたの身躰に異は有りませぬか」と問ふて見たら「なんにも變ることはないが、腋下にグリ／＼が出來て居ると」云はれるから尙問て見ると丁度小兒の煩う二三日前から少く、ソレが痛む心地したと云ふ答でありますから此には何か病氣が有ることだと思ッて更に母親の診察に取懸つたら成程腋下に一ッ「エノゴ」が出來て居る、ソレが胸部からか、腕からかと調べて見ると無論手腕の方ではない胸部からでした、さうして診察中からだが熱い故「あなた熱が有るやうには思ひませんか」と聽くと「只痛むより外にはなんとも思はない」と言はれたが、計つて見るで三十八度五分位の熱が有るのです、而して乳に大きな桃の種位の腫物が出來て居る、ソコに觸れると非常に痛がる即ち乳腺の一部の炎症です、デ其腋下のグリ／＼と云ふのは此の乳から來たので、即ち腋下の方は末で、

乳の腫れの方が本である然るに當人はソレを反對に思ッて乳には少しも氣遣ひない、ソコで小兒の病氣も恐らく此乳から起ッたので有らうと、早速熱を散らし母体の疾病に手當てを施行し而して斷然其乳を退けて、乳母が急に無いので牛乳にした其翌日代診を遣ッた處が、吐が止まり心氣も幾分か好い樣である、小水の分量も增した、又た其翌日は少し視力も出で、翫弄物などを見ッめるやうな樣子、ソレから續いて一周間ばかりの中に、殆ど腦膜炎の如き容躰は治り切ッて了ッた全く乳の惡ひ爲めに發たことは判然てある。ソレからモウ一ッは懇意なる某氏の小兒もやはり其通りで、だん〱診察して見ると母親の乳が非常に惡るいので早速廢して、親類に良い乳が有ッたので、ソレを飲ませると翌日より腦膜炎の容躰は無くなッて仕舞ッた、斯くの如く脚氣ばかりでなく、乳が惡るひと脚氣母乳と同じ樣な病氣を起す樣で有ります。ソレ故に乳を撰ぶのは餘程注意をしなければならない、ソレに就ても人工滋養の事は皆樣が如承知になッて居られなければならない。人工滋養は恰も武器と同じで、武器が無ければ國り治まらない、武器は國を守護する處の最も大切なるものである、併ながら一度之を濫用すれば忽ち騷亂が起ると同じで人工滋養も濫用すれば其弊害は大なるもので有ります。私の先生がお前の國では人工滋養は如何と聞きました、「人工滋養は一向開けない」と言ひましたら、「其事は一には大へんに不都合ながら一には大へんに芽出度事である、可成乳母を採るが善い、人工滋養を濫用されては大へんに困る」と言はれた實に日本では人工養法の都

小兒養料幷に牛乳の簡便なる消毒的貯藏器

鄙一般に開けぬのは牛乳の價より乳母の方が廉く雇うことが出來ると、又一には牛乳は何處でも得る譯に行かないと此の二不便に基く故であると思はれ升

却說是より貯乳器を說明せん即ち左の如し（器械圖を描きて示視せらる）



で人工滋養上良き牛乳を撰むべきは勿論なれ共、且つ之を能く清潔に蓄藏し、能く消毒しなければならない。其消毒器は前に申す通り三四圓なんて出さずに上下一般に單簡に行はれる便法を要す私は此点に付て不斷問はれる故に段々考へて終に上の如き極く〳〵單簡な玆に持參しました斯う云ふもの（ブリキ製消毒器）を考へた而して私は之を病家に拵へて使用させて居ります、是れならば五十錢位で出來ます、此器位ゐの大きさにすれば牛乳七合を一度に蒸すことが出來ます。これなら下等社會でも容易に出來る若し購ひ兼ぬる貧民ならは茶筒大なるものや石炭油の空鑵を以て切りはなしに麁末に拵へるとずット廉く出來る。さうして丁度飯を蒸すやうにして下に水を入れ、棚を置いて（圖の如し）壜を其上に載せます壜は何でも宜

いが上流の方々は良質の瓶を御用ひになるが宜しいか下流の人に付ては私に藥壜を用ひさせます、此れ一方には乳の分量を測るに便でもありますさうして壜の口に清淨なる青梅綿を以て栓とす、栓に蔽うには成たけ深く入れ、上の方は綿帽子を被ッた樣にして置きます、尤も綿栓は一回毎に取り捨る、瓶は小兒の飮む一度分つゝ別個に數本に分けて置きます、此百瓦入又は二百瓦入の藥壜の調法ある事は、壜に筋かある故之を用ひて大概の割合を附けることが出來る、例之は半々とか三分一とか乳に湯を割ッて飮ませるに便利あり、(此器の中には二百瓦入の藥壜が七本即ち七合這入ります)、蓋は椽が淺いと氣が漏れて可けませぬから成たけ頸を深くして中に差込むやうにいたします、蓋の頭に細孔を開けて置く、此鑵を直に火にかけて、棚下の湯を沸騰させると熾に蒸氣が立つ、けれども蓋が固く差込んであるので、漏れる所が無いので、棚上即ち瓶の周圍には十分蒸氣が充滿し遂に蒸氣が、プー〳〵と小さい蓋の孔から吹き出します、さう云ふ風にお湯が沸騰し始めてから通常十五分已上乃至二十分稀に時宜に依り三十分火にかけて置けば充分です、而して夏期なれば是れを鑵ごと水の中に入れて外より水を度々易へて冷す、(瓶に生水の掛らぬ樣注意す)冬には冷す必要なし、ソーして入用の分だけを其都度取出して、あとは元の如く蓋を固くして置けば器中の空氣は一度蒸氣で充分消毒して極く〳〵清潔になり、塵一つだも含んで居らない、假令又空氣が這入つたにせよ、壜には綿の栓が爲てあるから、此綿を漉して這入る空氣は清潔になつて居つて少しも害は

ない腐る恐れはない、キユルクの栓を蓋つたらどうかと思つて試みましたが、前に申した樣な危險は、清潔にすれば無いにしても、空氣を流通しない故に瓶中の空氣が熱して膨脹すれば其勢で、鐵砲見たやうにポン〳〵と吹き拔けて仕舞う、又旨く保つのは稀にあつても、外圍を冷やされて空氣が收縮すると同時に吸ひ込れて固くなつてどうしても拔けなくなるのもある殊に共口の壜などは再び沸して取らなければ取れない、甚だ不便不完全である故に共口、キユルクの必要もない綿花が最上です。爾う云ふ工合に價が廉くて、最も安全に出來るのです、之を小兒に飮ませるに、哺乳壜などに分ける必要もない若し取り扱ひが惡いと知らず識らず不潔にもなり易く又手數でもなりますから、私共は成るたけ下流の人には儉約して實行を期する爲めに、直ぐ此瓶を銅壺なり土瓶なりに入れてお燗をし護謨管を差し込み、直ぐにこゝから吸はせる樣にします、さうすると極く容易く、且つ價も廉く且つ安全に至極便利で有りますから無智の人でも貧民でも容易く行はれる乳に割るには湯を用ふへし或る某氏方の小兒なども煉乳を容く際大へんに熱かつたといふので下婢が其湯に生水を注いで拵ひて飮ました、處が其小兒は俄に大腸加答兒を起して血液の混じだ大便をする、變だと思ッてだん〳〵聽いて見ると前の話であッたが、總じて下女などゝいふものは道理の解らぬもの故、いくら良き器械を用ひても複雜にして面倒なるものは永續して行はないソーシテ蔭で斯う云ふことをしては何にもならない、ソレよりは寧ろ此安易なる方法の方が實効が有らうと思ひ

ます、總て物の腐ると云ふ原因は器の不潔、品物中に含める細菌類空氣中の塵埃水中の深渣分等より出來るものなれは煮て消毒したる器品空氣（綿栓を通過せしものは既に無害となれり）水（殊に蒸餾水を然りとす）には腐敗の恐なし然れとも一度消毒した物でも若し其の貯法惡くして消毒せざる水や空氣に觸るゝときは視へぬ程細い芥塵か有りても此れか腐れを原因するのである反之土鍋て煮て后瓶に移し栓をなして貯ふるか如きは甚た不完全の法と云ふへし如斯は乳汁を一回消毒するの實益は十分之れなれとも貯藏の方法上に對しては大に不完全なること明なり。斯器の如き簡單なもので是れならば下等社會でも容易に用ゐらるゝで有らうと思ひます、啻に下等社會のみならず上流の皆樣にも便利の方と思ひ升或一二の華族さんでも他の器と遣ひ比べて見て、單簡で、而も完全で宜しいと言ッて女中達は大へんに喜んで居ります、どうか皆樣も財の有無に拘らず、便利な事は行つて下さる方が御利益だらうと思ひます、是非〳〵御出入の下々にも安全なる方法を御勸め下すつて、牛乳の消毒法が完全に出來る樣に願ひたい然らは大なる幸福で有らうと思ひます……つまらぬ御話を永く致して定めて御迷惑の事と存じて謹謝致します

◉姙婦の養生

Dr. I. S.

私の申しまする姙娠養生法と云ふのは、公衆の衛生ではない、一人〳〵に就ての衛生です。それ故に規則の樣なものにして、之を何の人にも當箝

めて往くと云ふことは六ヶ敷う御座います、人々平日の習慣、生活の程合、或は身躰の出來などが各々違ひますから、之を同じ規則の中にはむることは頗る困難と思ひまするで、聊か規則からして外れましたる樣なことに就て、一般に必要なる箇條を御話し致します。

妊婦、産婦、蓐婦

先づ妊婦と云ふ事に就て一寸其の意味を申しますると妊婦とは、妊娠の婦人と云ふことで、是は申すまでも無いが併しながら學問上の名義に區別が有ります。能く世間で產婦だの、或は妊婦だの云ふことを間違ひて使ッて居ります、妊婦とは、今申した妊娠中の婦人と云ふことであるが、產婦とは、僅か何時間と云ふ時間を定めて產する間だけのことを產婦と申します、又蓐婦と云ふのがある、是れは產をして後、六週間ばかり蓐の上に在る時を云ふのです、能く世間で產婦の見舞と云ふことを申しますが、是れは誤ッて居る、即ち蓐婦のお見舞と云ふべきです、此等の名義の區別はあるが、今日は妊婦の養生法に就て申上るので御座います。

妊娠の時日及び其間の養生

妊娠と云ふ者は何の位の經過を爲すものかと云へば、大凡の極りが、二百八十日であります、其の二百八十日の養生を爰に申しまするのですが、然し只今申しましたる通り、二百八十日と云ふのは極く大極めで、決して精いことでは無い、其の二百八十日の第一日一番始めは、何にとッたかと云ふに、月經の上ッた當日、夫れより數へるのです、併し月經の上りし日が、懷姙した日と云ふ譯では

無い、シテ見れば月經の閉ぢた日より、次の月經までに懷妊したものだから、十日とか二週間とかの日を經過したる、正しく二百六十五日とか二百七十日とかが正しいのであります、我人類に於ては、二百八十日と云ふを妊娠の期日と致しますが、動物の種類によりては、非常の違ひがあります。是れは動物學者が色々定めたことだが、妊娠の經過は身體の大さに比較するもので、身體の大なるものは、其の經過も長いと云ふのは略定りたることで、象などは動物中最も大なるものであるから六百二十五日と云ふ、シテ見れば二年程も經過を致します。又馬の樣なものは三百四十六日。ズット降ッて犬の樣なものなれば、六十日。猫の樣なものは五十六日と云ふ樣に、追々動物の大さによりて比較して居ります。只今も申しましたる通り、我人類の經過と云ふものは、大略二百八十日と定めて置きまして、其の間に種々のことが起る、是れを或は衞生法に基て防ぐことが出き或は又不充分なることは補ふて行くことも出きます。又二百八十日間に衞生の法を得れば、壯健なる小供を生むことも出き、又分娩の際に安易に產することも出きます、從て產後の日立ちも容易く、惡しき病氣を引起さずに往くことが出きます。シテ見れば二百八十日間に十分の養生法を行へば、親も子も宜しき成績を擧ることが出きるのですから、是非如何なるお方でも養生と云ふことに注目しなければならんと思ひます。

妊娠中容躰の變化

妊娠して居る間には、色々變躰のことがあります、ソレも各々人によりて違ひます、例へば、甲の人

は妊娠して、大層からだが、壯健になり、調子が能くなつたと云ひ、乙の人は懷妊してから、頭痛がするとか、息切がするとか、腰が痛むとか、食物を食べぬとか、種々の訴を起すものもあります、又妊娠の始め、或は其の半、或は終りと、時の進むに從て、容躰の大に變ずるものがあります、即ち最初は食事が出きないと云ひ、半は頭痛がすると云ひ、仕舞には足がつれると云ふ樣に、樣々に變じて往くのもありますし人に因つて違ひ、又時に因て懷妊中の有樣が違ひますから、之を等しく定りたる所の規則によりて、何月日は斯くせよと云ふ如きとは、到底出きない、仕立屋なれば、五尺の人は是れだけの幅で、何れだけの寸法であると、其寸法を等しく當てはめるとか出きるが、所謂活物に就て、生活の有樣に就てはナカ〳〵此の一定の寸法では出合いません

養生とは食物のみに限らず

一躰に我國の人は、養生法と云ふの主意を考へ違へて居ると思ふ、其は一概に養生と申せば、食物と云ふ樣に考て居ます。ソレ故に、毎に私の診察場などで、容躰を演べきらぬうちに、食物から問ふ樣な譯です。申さば嘆かはしき次第です、一躰食物の善惡を擇ぶとなどは決して養生法の主意ではありません、或は永い間醫學の進まない所からでもありませうが、日本には毒忌みと云ふとがある、脚氣には小豆がよろしい、午房は毒だと云ふ樣な六ケ敷い講釋もありますが、元來食物の毒は無き筈です。食物と云へば總て無害のものである、其中只撰むべきものと捨てべきものと、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

食ふて要のなきものことがあるだけに過ぎません。

妊婦養生の大要

然ば、妊婦の養生と云ふものは如何なる事柄を申すのであるかと尋ねましたならば、最も簡易なる容易き一語を以て説明すことが出來ます。即ち、「平生」の習慣を頓に改むるなかれ」と云ふことであります。是れは、食物から、衣服から、運動其外のことに就ても、悉く其通りで、懐妊したから平日身體を動かしたものも動かさない、又平日は粗食して居たのが、懐妊したからとて俄かに肉食をなし、牛肉とかソップとか用ゐれば、身體の釣合を大に失ひます。其外、厚着をしたりする樣なこともあるが、其の平素の習慣を頓に改むること勿れと云ふのは、確言と云ふても宜しい。其外に、清潔と云ふことがある、清潔とは、部屋も奇麗に、身體も着物も、奇麗にすべきこと、又新鮮の空氣と云ふて、塵芥などの立たざる空氣、是れが大切です。

貧富貴賤によりて異なり

然しながら、人には貴賤貧富と云ふものがありませう、是れは社會の有樣て免れざるの數でありませう、貴き地位に居る人、富で居る人、貧しきもの、賤しきものなどは、同一の生活を爲すことの出來ぬは勿論、撿束で遣ることも出來ない。ソレ故に爰に斟酌をしなければ、到底行はるゝことは出來ない。滋養物がよいと云ふて、貧乏人にさとしても、車夫一日の勞動を以て一回の晩餐を償ふことも出來ません、併し新鮮の大氣とか、清潔とか云ふことは、注意第次で誰でも出來ます。殊に我邦の人は、湯に這入ります、大底貧しき暮しを

して居るものでも、毎日一回づゝ入浴するの習慣でありますゝ洵に是れは全身の清潔法に就ては、宜しいことでありますが、然しながら只一の憾しむ所は、湯に入りて身は清めますが、衣服が實に清潔でない、殊に夜分に臥します夜具などは、三年に一度、五年に一度しか洗濯はしない、毎日入湯しても不潔の衣を纏ひ、不潔の夜具に寢る、何の益にありませう。是等は、一に注意次第で例へは洗濯をなさば貧富貴賤の別なく、清潔にするとは出きるものと思ひます。（未完）

衛生叢談

◉暖室法

Dr. G. K.

凡て廣大なる病院にては中央暖室法と名つくる方法を用ふ此方法は構内の一室より水蒸氣又は沸騰したる湯が鐵管内を通りて院内の各室を廻り室内を温たむるものにて其温度の調節は特別なる仕掛けありて完全なる暖室法となす

通常用ゆる暖爐には其形、構造種々あり、鐵製の暖爐は病室に適せず少しく燃料を多くするときは暖爐赤熱して其近傍のみ熱くして室内温度平均して此處も彼處も一樣に温まらず又爐中の石炭又は薪等を爇すときは室内の温度急に下降するものなり即ち外氣の寒さに應じて適宜なる心地よき度迄室内の温度を高めをくこと出來にくきものなり然し鐵製にても内部に粘土を塗りたる暖爐は斯くの如く温度の劇變をなすことなし、然し先きの鐵管の暖爐にても木板又は鐵板にて作りたる對立にて界ゆるを宜しとす、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

西洋風の家屋にて室壁に作り附け暖爐あり（新橋停車場待合室にあるが如し）之をカミシ――と云ふ此カミシ多量の薪炭を用ゆるも室内を温むることなし西洋にては只一種の裝飾に用ゆるのみなり、又隣室に暖爐を置き大き鐵管を病室に通して室を暖むる法此方は多くの薪炭を要するも病室内への空氣が烟又は薪炭のゴミの爲不潔となることなし、（トロツケンノ了）

病室は何度位に温むるべきかと云ふに病症により同樣ならざるなり

（一）不斷病床に安臥する病人には一五或は一七、半を宜しとす、熱性の患者には室温余り高からざるを宜しとす即一五、度を適度とす、通常健康なる者が愉快に感ずる温度は十七度位なり、（二）人の体温は三十六度より卅七度位の間を高下するものなり毎朝六七時の頃最も低く午后五六時の頃最も高きものなり病人にても此午前午后の差殊に明なり故に病室を温むるに於ても注意すへきことなり

◉熱病者の看護法

此條に記する者は凡て熱を發する諸病の看護法にして元來熱なる者は獨立の一病に非ずして諸病に發し得る一症狀なるのみ此熱は血液中に病毒の混入するに由て發するものにして其發熱せる人は自ら疲勞倦怠を覺へ食氣を失ひ數々飲液を貪り頭痛を訴へ初めは寒冷にして後ち熱灼せらるゝが如きを訴へ終に發汗するに至る

熱病者の寒冷感覺或は惡寒戰慄（病者は其際藍色となり全腹振顫し且つ咬牙す）は熱を發起し或は其增進するを示す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

熱病者の灼熱感覺（其際病者の顔面紅色を潮し唇舌燥乾し渇意を訴へ時として譫語す）は發熱の高點に至れるを徵す

熱病者の發汗は屢〻熱の暫時減退し或は其全く解熱するを示す

發熱の間は脈搏疾速（一分時間八十以上）にして體溫（三十七度九分以上）亢進し呼吸疾速となり（一分間八十以上）尿量減少す（四時廿間に一千立方「センチメートル」以下

輕熱は唯數時或は數日持續するのみ（例之感冒熱の如し）重熱は數周間持續す（例之窒扶斯の如し）數月間に瀰る處の熱を身體消亡熱或は虛憊熱と名け此熱は每朝下降し每夕劇しく昇騰す（例之肺勞、骨瘍の濃汁漏止まざる者等に於て見るが如し

溫體愈高く脈搏及呼吸愈疾速にして尿量益々減少し熱の持續益永く且持長するに從ひ生命の危險愈大なりとす攝氏四十一度以上の溫度を發し一分時間の脈搏百三十乃至百五十に至り呼吸數四十以上の溫度を發し一分時間の脈搏百三十乃至百五十に至り呼吸數四十以上を算し排尿全く絕止する者は必ずや注意を怠らず看護せざる可らず外科的熱病者に於ては若し手術を施し病者身體の或る部分より膿汁を漏し去るときは一頓に解熱する事あり

左に論述する所は熱病者を看護するに當り注意す可き所の者とす

（一）朝夕脈搏及體溫を計り叮嚀に之を一表に記載す可し醫師の請求ある時は呼吸數及二十四時間の尿量をも計るを要す

（二）熱病者は必ず褥に就かしむ可し但し惡寒する

時は温暖に蒲團を被ひ熱茶を與ふ可きも概して熱病者は清冷に處置するを法とす(病室は勉めて空氣を交換し被衾を輕くし數々襯衣を取り換へ前額に冷罨法を施し屢冷布を以て背部を拭ふ可し)久しく持續せる劇熱には毎夕顏面胸部背部及上肢を冷水を以て洗拭し且つ醫師の處方せる藥劑、冷罨法等を用ゆ可し

(三)熱病者には清冷の飲料を與ふ可きが故に屢橙汁或は酢を加へたる氷を與へ或は善良なる新汲の水(夏日は氷片を加ふ)を飲ましむ可し

(四)熱病者は速に羸瘦する者なれども滋養の食品を食するに堪へず多くは又之を欲せざるが爲に淡白なる流動食物を與ふ可し(米粥汁、乳汁等とす)其體力を保つが爲め毎三時或は毎二時或は毎時に之を與ふ可し又適度に葡萄酒或は麥酒を與ふるも可なり

(五)熱病者の臥褥は殊に注意を要する處なり此病者は他病よりも褥瘡を生し易し故に敷蒲團には少しも折れたる皺襞なからしめ毎日冷水にて背部を拭ひ柔き羽毛を容れたる枕を用ひしめ且つ水枕等を臨時に用ゆ可し重き熱病者は動もすれは輾々反側して臥褥を亂し皺襞等を生し易きを以て晝夜數回其臥褥を整理するを要す

(六)熱病者に於ては唇、舌、頰部の内側及口蓋は惡臭ある乾ける痂皮或は白斑點を以て被はるゝが故に病者甚衰弱して自ら口内を清潔となす能はざるときは其家族をして毎日數回口内を清洗せしめざる可らず

(七)多くの熱病者は精神朦朧となり知らずして兩便を泄し或は却て兩便の結止する事あり看護人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

は此両件に注意を加へ時々清潔となし臥褥を換へしめ室内の空氣を交換す可し

時として下痢或は灌腸により便秘を除きて便利せしむるときは熱消散し或は減降することあり

（八）多くの熱病者は譫語するを以て其際騒がしく興奮し自ら被衾を取り捨て臥蓐或は室内より外出せんとし窓より跳出し不時の偶發症を招くことあり故に譫語する熱病者は瞬間たりとも一人にて放置す可らず或は之を閉鎖せし室内に臥せしめざる可らず

（九）熱病者は急卒に體力脱衰（虚脱）し顔面蒼白となり冷汗を流し體温減降し（三十六度或は三十五度）脈搏觸知し難き時は湯婆を與へ臥蓐温暖とし赤葡萄酒を與へ依的兒或は樟腦の皮下注射を行ひ足蹠及足の腓腸部を粗糙なる布片を以て盛に拭擦す可し

○自轉車の害　近依各地方に於ては自轉車の流行日を逐て甚しくなり之に乘る人々の中には唯戯の爲めにあらすして幾分か體育上にも裨益あるへしと信するものもあらんか其實全く然らすして曾て米國のサイアシチフイツク、アイメリカの紙上に於て英國有名の醫學士某の寄送に係る稍精密なる統計表と理學の適用説とを揭て其害を論したる事もあり如く之れを慣用するものは腰部の關節を一方にのみ強くし脊骨を屈撓するの傾あるに因り知らす識らす身体の姿勢を損し遂に所謂駝背等の疾病を來すの恐れあれは甚だしく身体を屈する乘方は充分矯正して姿勢を正しくするに非されば体育上實に忽にすへき事にあらすと

○死亡者割合　某外國醫の調査に依れば百萬人中老衰して死亡せる者は僅かに九百人にして千二百人は痛風、一万八千四百人は痲疹、二千七百九十九人は中風、七百人は皮膚病、七千五百人は肺病、四万八千人は猩紅熱、二万五千人は百日咳、三万人はタイフオイド及び窒扶斯、二万五千人は傚痲質斯にて死亡せる割合なりとぞ尤も土地に依りては多少増減あるべきも世界を通じては大略右の割合なるべしと云へり

T、　T、

◉腸窒扶斯の看護法及豫防法

腸窒扶斯は俗に腸寒と唱へ來りし病にて熱ある病症中、最も多く流行する恐る可き傳染病なるが故に特に此看護法を記し世人の心得に供す

腸窒扶斯は其病毒、主として腸管に舍り之を傳染するは飲食物に由る者なり此病者を看護するには先病室を清涼となし善く空氣を流通せしめ其臥褥を設くるに折れたる雛襞なからしめ注意して蓐瘡を生ずるを豫防し（前文の一般看病法を見よ）其口内は充分に清潔となすを要するが故に輕症の病者には自ら口内を清洗せしめ重症の者には清潔の布片に硼酸水を侵したる者には看病人をして病者の口内及舌を善く拭ひ清めしむ可し

此病者に與ふる流動滋養物を良とす殊に煮立てたる後ち放冷せる乳汁、肉、羹汁、鷄卵、稀粥汁を用ひ飲料には常水を煮立てゝ更に冷したる者、放冷したる麥湯を與ふ可し「ラム子」は腹部膨滿を來すが故に用ゆ可からず冷茶に乳汁を混せる者は善良の飲料にして重症の久く治せざる者には善良の葡萄酒、極て良好の日本酒等を少許を與ふ可し而して已に解熱したる後も尚一周間以上は液類のみを用ひしめ決して固形食物を食せしむ可らず此恢復期に及び食物の不攝生なるが爲め更に再發するのみならず死亡を招く事あり深く戒む可き所なり解熱後一周以上を經るに至らば漸次に米粥、筋のなき柔かき生の刺身等を與へ柔軟の鳥肉、脂肪少き淡白なる魚肉等を用ひ徐々に尋常の食物に移る可し

◉赤痢　は俗に痢病と稱し頻りに便所に赴き少許の粘液血液等を混したる者を泄瀉する病にて病毒は大便中に存在する者なり此病者は輕症にても必ず褥中に温包せしめ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「フランネル」にて腹部を包み食物の攝生を嚴重にし病初より濃き肉羹汁煮たる乳汁鷄卵粥汁、少許に葡萄の酒を與ふ可し飲料には冷かなる者よりも温暖の者即ち暖き麥湯葛湯等を宜しとす

今左に腸窒扶斯の流行時に施行す可き豫防法消毒法を內務省訓令(明治廿三年十月)に從ひ抄錄す病者の家族たる者宜く之を遵守履行せざる可らず赤痢の豫防法も之に準す

豫防法　腸窒扶私又は疑似せる熱性患者ある家に於ては左の豫防法を守らしむ可し病者の居室には無用の交通を絕たしめ又其自宅に於て消毒看病行屆き難きもの及患者若くは家人の望に依りては避病院或は適當の家屋に移して治療を受けしむ可し其病者の居室は常に清潔ならしめ斷えず空氣を善く流通するを要す

病者の糞便を取扱ふには其人を定め置く可く其便器には蓋を具へ且つ滲漏の虞なきものを選み豫め之に適宜の石灰乳又は生石灰若くは石炭酸水を入れ置き糞便を承けたる後は更に前記の消毒藥を灌き所定の便所に移す可し又病者の上りたる便所には少くも糞便量十分一の石灰乳五十一分の生石灰若くは五分一の石灰酸水を灌き(成るへく能く攪拌すべし)前後患者の上る每に前記の消毒藥を灑くを要す

病者の用ひたる衣服臥具敷物、飲食器其他看病人の衣服等凡て病者の糞便に汚染し又は汚染したる疑あるものは之を取纒め適當の容器に入れ消毒法を行ひ病者の身體、糞便及ひ之に汚染せるものに蚊蠅等の集らざる樣注意し又病室に蚊帳を張るときは其蚊帳の糞便及び之に汚染せる物品を取扱ひたるときは直ちに石灰酸水及は昇汞水にて手を洗ひ更に水にて洗ふ可し又病人の家族は特に飲食物に注意し飲料水は必ず煮沸するに非れば用ゆ可らず

已に腸窒扶私を發生するに至らば病家近傍の各家共同して左の豫防法を守る可く又衛生組合を設たる地方に於ては衛生組合長より其豫防法を各家に告知するを要す

病者ある家と成るべく交通することなく病家の井水を他家に於て共に用ゆ可らず但し已むを得ざるときは煮沸して後用ふ可く又飲食物は必ず煮熱して用ゆ可し芥溜を掃除し病家より流るゝ下水の溢れて滲潤するを防ぎ且つ破損せる下水溝は速に修繕す可し其他總て熱性病に罹り又は下痢する者は速に醫師の治療を受く可し

◉小兒の補育

此法は啻に病兒のみならず凡て健康ある小兒にも

丁寧なる看護を要すると此小兒の看護法は元來婦人の職務たるを以て殊に重要なる者とす

主として成長せる小兒（六才乃至十四才）の精神上敎育に關する看護法と初生兒(第一才以下)及幼稚なる小兒(二才乃至六才)の看護法を區別す可き者にて玆には初生兒及幼兒の看護法は主として身體の看護に係る者たり

(一)初生兒の補育につきて　初生兒には温暖睡眠淸潔なる取扱ひ及ひ適當なる營養法の四件を要す

初生兒の衣服は總て其之れを用ゆるの前温暖とせさる可らす着衣せる小兒は護謨蒲團を具ふる兒籃襁褓腹帶襯衣其衣服上着服を以て温暖に被包するを最良とす小兒を置く室內は列氏十五度の温度を常に保たしむ可し湯婆及室內寒暖計は小兒の寢室に於ては缺く可らざる者なり腐敗の蒸發氣(例之、庖厨の臭氣、洗濯物の蒸發氣等）は必ず小兒室に入らしむ可らす每日室內の空氣を能く交換し生後第二週を經るに至らば温暖なる天氣の日に小兒を每日屋外に出すを可とす」、健康なる初生兒は生後第一月の間殆んど睡眠する者なれども每二三時を經れば稍醒覺叫泣せんとす然るときは小兒は飢餓を覺ふるか或は兩便を洩せる者とす生母及看護人は小兒室を安靜ならしむるに注意し就眠せる小兒の顏面に蠅蚊の止るを掃ひ目を眩する光線は黑布を以て防く可し晝夜を問はず小兒の叫泣するや否や其着衣を結び或は身體を拭淸し或は之を乾拭し更に温めたる襁褓の上に臥せしむ可し每三時小兒に哺乳せしむ可し若し小兒を淸潔となし哺乳に飽かしむるに係らず高く叫泣するときは其病に罹れ

る者なるを以て醫師を招き診察を請はざる可らず第一以下の小兒を清潔となすには毎朝溫浴を行ひ(列氏二十六度乃至二十八度)毎夕溫湯にて全身を洗拭するに在り不潔になし於ける小兒は動もすれば皮疹腺脹等に罹り易し初生兒は五分以上入浴せしむ可らず　加之其際小兒をして溺れしめざるが爲め頭部を支持すべし小兒を洗ふに決して海綿を用ゆ可らず必ずや清潔なる布片に包み注意して之を拭ひ乾し初めに眼目及ひ耳を拭ふ可し臍は尙は開放せるを以て毎浴時油を浸せる綿及少許の防腐綿を以て被ひたる後ち廣き「フラチル」繃帶を以て緩く小兒の腹部を纏ふ可く小兒の口も亦勉て清潔となす可し則ち哺乳せる後は必す冷水に浸せる清潔なる布片を以て丁嚀に拭ひ淸む可し則ち哺乳せる後は必す冷水に浸せる清潔なる布片を以て丁嚀に拭ひ淸む可し然らざれば鵞口瘡ある口内病を發し易ければなり頭部に被れる剝脱せらる可き皮屑は勉て油又は卵黃を以て摩擦し且つ微溫石硷水を以て洗ひ丁嚀に除去す可し

小兒看護法の最困難なるは幼小なる小兒の營養法にして初生兒は生後第六月乃至第十月の間は母乳に依て發育せしむるを最良とす若し此營養法を行ふ能はざるとき（生母死亡するか若は病に罹るか或は其小兒より分離せざる可らざる事情あるときは、經驗上牛乳も用ゆるも又初生兒をして發育せしむるを得可し又諸他の所謂、人工的小兒營養品は牛乳よりも善良ならず初生兒には其牛乳を溫め（乳器を熱湯中に浸す）一日毎三時に與へ生後二ヶ月間は每夜一二回與ふ可し小兒の食用に供する牛乳は生後一ヶ月の者に於ては哺乳器三分一の

乳汁に其三分二の沸湯を加へて稀釋す可し第二月及第三月の者には乳汁及溫湯等分の者を與へ第四月及第五月の者には乳汁三分溫湯等分の者を與へ第四月及第五月の者には乳汁三分溫湯一分の者を用ひ第六月以後の者には純乳を與へ且つ漸次犢肉羹汁攪拌せる卵等を與へ乳齒を生ずるに至れば打碎せる肉、柔軟なる麵包を與ふを得可し而して小兒は此食品を以て發育するや否やを檢するには每週一回（每回同時刻殊に早朝を良とす）之を秤量し其體重を一表に記識す可し初生兒の體重は生後六ヶ月間は每日二十乃至二十五瓦（五匁乃至六匁强）を增加する者とす

（二）第一歲以上の小兒の看護法　第一歲を經過せる健康の小兒は談話及步行することを初む然るときは其發音及單語を習はしむる爲め家族をして頻々徐々に小兒に向ひ談話せしむ可し其步行を習はしむるには甚速に步せしむ可らず小兒の年齡一年三ヶ月或は一年半に滿つる迄は靜に步行を習はしめ其後に至るも尙は常に走る能はざるときは之を醫師に告ぐ可し今や健康なる小兒をして終日屋外に遊步せしむ可し之に反して精神を使役すること甚早きに過ぐ可らず、又決して不正不當なる方針に導く可らず其第四才に至るまでは晝間も亦數時間眠らしむ可し十才に至るまでは十時間以上夜間眠らしむるを可とす小兒に最初に敎ゆ可きは禮儀にして其第六才までは遊戲するに任す可し小兒を過するには寬容及愛憐を以てし若し稍嚴肅を要するときも決して甚だ威嚇す可らず殊に言辭及行爲を論せず善良なる習慣を得せしめ小兒の可憐無我なる性行を腐敗せしむるを防がざる可らず小兒

己に第六才に近つくに從ひ益〻大人の食物を用ひしむ可し菓子類は小兒の喜ぶ所なれども蟲齒を發せしむるも菓子を食せるが爲めに滋養物に於ける食欲を減少するを以て過度に與ふ可らず苛烈物及酒類は持續して用ふれば必ず害ありとす

第六才に至るまでは毎日小兒をして入浴せしむ可し之より以後は少なくも毎週一回入浴せしむ可し

大日本婦人衛生會記事

●十一月例會　十一月十二日第二土曜日午後一時より神田區一ッ橋通大日本教育會談話室に於て本會の例會を開く定時より會員及傍聽員續々來會百余人の多きに達せり第一席醫學士山田鐵藏君には「セオルヂテート」に就て神經質の話と云へる演題を以て總て腦神經に關する病症に付演述せられ第二席には理學博士長井長義君には食物調理に要する割烹具鍋類等の良否に付演說せられ尚器具標本等を示さるゝ筈なりしが時間遲れしが爲め次回を期して一同散會せり

●寄送册子

山根正次述　江原善槌速記

國民必携　赤痢病豫防法　一册　一名傳染病豫防法

神田誠之堂日本橋丸善發賣

右は警察醫長醫學士山根正次君の近著にして同氏より本會に寄送せられたるものなるが世の册子多くは個人的豫防に偏倚し國家的若くは公衆的に論及せるもの甚た少し此册子の如きは専ら公衆的豫防を論述せられたるものにして總論には先づ衛生の觀念を解き第一章に於て傳染病と國家との生存に至大の關係を有する理由を生命、財產、國權、軍隊、教育、の五欄に分ち第二章に於ては傳染病流行の原因に就き隱蔽、迷信、賣藥、醫師の缺乏、衛生思想の空乏、黨派的感情等に說き及ぼし第三章に於ては傳染病豫防の機關及其豫防、清潔法施行方法、隔離法及看護婦養成衛生團体の組織を說き終りに附記して傳染病消毒方法、同患者臨檢官注意事項、水害地清潔法施行法等に付氏が檢疫官として平素の實驗と經驗とに徵しふり假名附を以て論述せられたる者なれば今や傳染病猖獗の時に方りては特に國民必携の良書と云ふべきなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

◉入會者

◉事務所へ申込に依り
下澁谷村赤十字社病院　枝原つる子
山梨縣甲府市春日町三拾三番戸　武藏常子
　内藤種子
◉内山松榮子の紹介に依り
神田區錦町一丁目八番地山田屋方　飯田みき子
◉林つる子の紹介に依り
芝櫻田和泉町九番地　佐藤うた子
◉津田たま子の紹介に依り
芝區三田小山町一番地　福島つる子
◉宇佐美きち子の紹介に依り
下澁谷村日本赤十字社病院　佐伯音羽子
仝　加藤つぎ子
仝　石黒よし子
仝　周きよ子
仝　金田たま子
仝　鈴木つる子
◉片山龜子の紹介に依り
神田區駿河臺西紅梅町十六番地　松井正子
特別會員
◉淺井梅子の紹介に依り
麹町區九丁目四番地　川村貞子

○新潟支會へ申込に依り
新潟市學校町二番町　小室房榮子
　橋本げん子
　岡田しけ子
新潟市醫學町二番町營通り　佐竹わい子
　加藤孝子
◉小田松子の紹介に依り
長崎縣東彼杵郡西大村字西小路　清水すみ子

◉移轉者

麹町區飯田町六丁目十九番地へ　弘田益子
麹町區飯田町三丁目十番地へ　長田しき子
麹町區永田町二丁目八番地鍋島内へ　坂本房子
牛込區矢來町八番地廿五號へ　伴よし子
麻布材木町二十四番地へ　松岡光子
日本橋區濱町壹丁目十九番地へ　宮本いく子
芝公園地第七號地の一番へ　早川春子
赤坂區新町五丁目四十三番地原田方へ　柳川きみ子
麻布區霞町貳番地へ　渡邊ちせ子
本郷區駒込西片町十番地ろの二號へ　片山龜子
横濱市伊勢町二丁目十八番地縣知事官舍へ　淺田みね子

◉會告

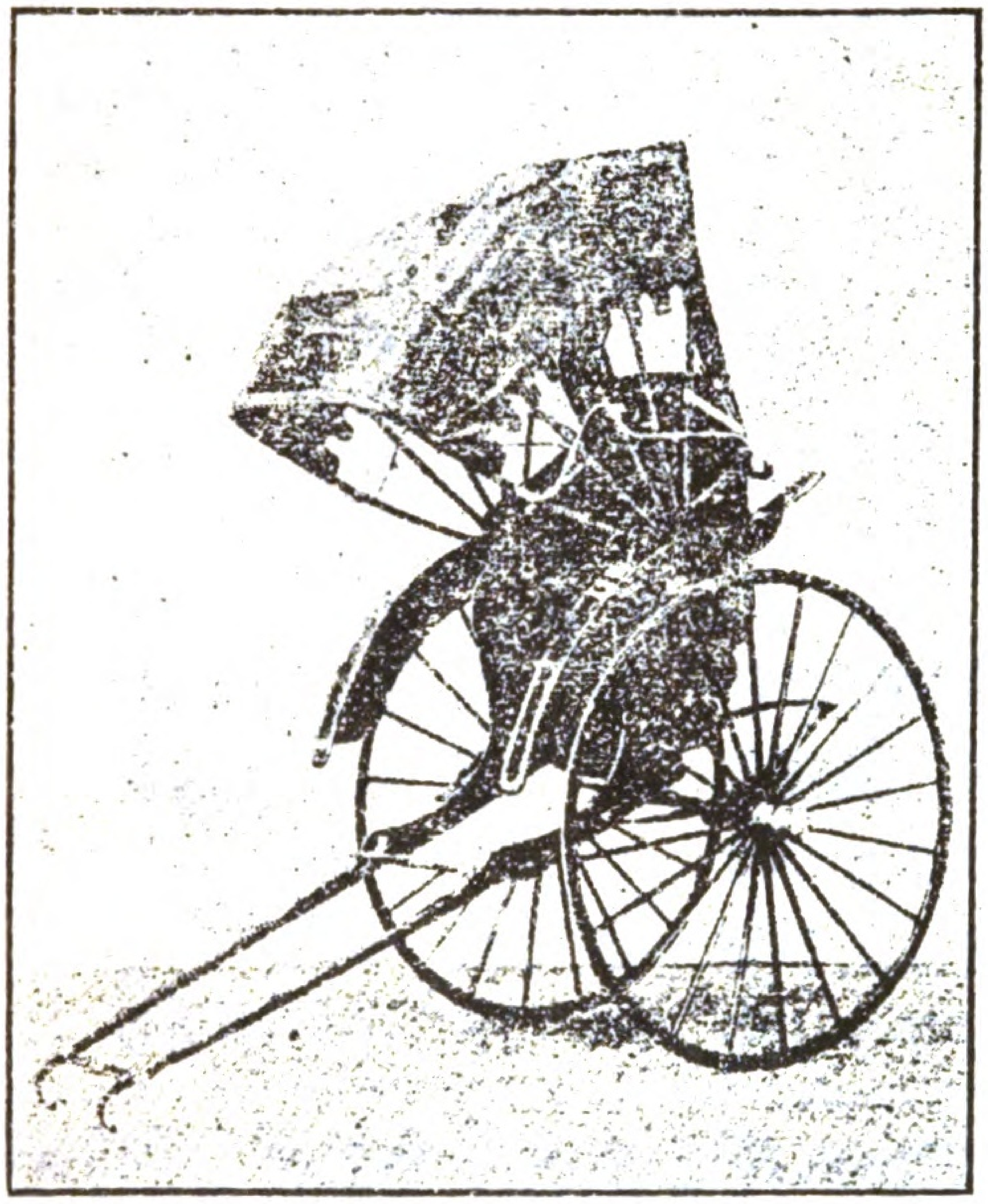
本會評議員南部隈子氏は本月より終身會員となられたり

大日本婦人衛生會

農商務省貿易品陳列館及び上野公園

商品陳列館に上等人力車出品有之候

保險附人力車大販賣廣告



弊店儀從來人力車製造販賣罷在候處大方諸彦の御引立を蒙り日に増し盛大に相成候段辱奉深謝候弊店製造の人力車は車体搆造の堅牢なること形状の格好よきこと殊に車の出方至て輕くして輓子の勞力を省き且皆樣方のお乘好きこと等は巳に世人の定論も有之候猶今後益々大勉强を以て製造販賣可仕候間何卒陸續御用被仰付度伏て奉希候謹言

漆細工は本邦特有の技術に有之候へば益々改良進歩の道を謀り益々邦人の技能を發揮せさるべからざることに御座候然るに當業者多くは目前の利を計り粗造品を製出致し候ため終に内外人の不信を來し我が特技たる斯業も今や振はざるに至り候は實に慨嘆の至りに堪ゑず候小生大に感ずる所有之乍不及徐々挽回の策を講せんことを自任仕り以後器物其他塗物一式極造牢に仕揚げ御注文に可應候間御用向の節は何品に不係御一報被成下候はゞ早速參堂可仕候頓首

保險附人力車製造販賣店

東京本郷春木町二丁目五十六番地

伊東竹三郎

私立大日本婦人衛生會規則摘要

一凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり

一會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

一本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中女生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

一男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

一本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

一毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

一會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむるとを得

一講義演説の際男子の傍聽を禁すと雖も會員に縁故ある男子は此限にあらず

一會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

一會費は郵便小爲替にて東京神田佐久間町郵便取扱所へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

明治廿六年四月四日遞信省認可毎月二十日發行（定價金拾錢）

し尤も一割増とす

一入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便券二錢を添ふべし

一毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し

一至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

一各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

一本會の集會場は時々報知する者とす

一會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便券にて納むる者は右受領證遞送費として郵券二錢を添ふべし然らされは受領證は送付せざるものとす

東京下谷區練塀町四十三番地

私立 **大日本婦人衛生會**

齒科診察 午前八時ヨリ午後三時マデ

東京日本橋區本町二丁目十二番地

齒科醫 **高橋孝子**

齒科醫 **高橋虎一**

廣告料改正

一頁	金二圓	總て前金とし割引せず
半頁	金一圓	
一行	金六錢五厘	

明治三十一年十一月十八日印刷
明治三十一年十一月二十日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎

印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN